

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	すみれ会の理念を基に、地域密着型サービスの役割を反映した独自の理念を作っている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を念頭にした介護目標を設け、取り組んでいる。月1度の会議で介護目標を意識するように入所者の処遇に関する話を話しあう機会を設けている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念や介護目標は入所時に説明している。また、運営推進会議にて、地域の代表者（町内会長・民生委員）へ、理念についての説明をしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会に入会し地域の方との交流を持つ機会を作っている。また、日常的に近所の商店で買い物をしたり、通学途中の小学生と挨拶を交わすなど交流を図っている。また、公民館の催し物や地域のごみ拾い、敬老会等に参加している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議にてサービス評価の意義や、目的を全職員に伝え全員で自己評価に取り組むようにしている。また、調査報告書を全職員が通読し、指摘部分や改善点などは、項目ごとに担当を決め取り組んでいる。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議開催時は、サービスの状況や評価についての取り組みや、活動報告をしている。その上で、家族や出席者からの意見を伺い、スタッフ会議にて全職員へ報告しサービス向上に努めている。	○ 職員会議で話し合った結果や、実践での取り組み状況も今後報告していきたい。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	自己評価、外部評価の結果を提出し報告している。運営推進会議に職員が参加した際、利用者の実態や家族の要望、運営に関することの課題など伝えている。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や、成年後見人制度について研修会等にて学ぶ機会があり、必要時活用できるようにしているが、管理者が対応している為、他職員の理解は少ない。現時点では制度を利用している方はいない。	○ 管理者以外の職員にも権利擁護事業や青年後見人制度を理解してもらい、制度の活用をすすめたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についての定義や関連法、職員の通報義務について施設内研修を実施し虐待の防止を図っている。また、会議等にて事例などを取り上げ、虐待の防止に努めている。	○ 虐待について定期的に職員の周知が図られるように、会議等で話をしていきたい。また、独自のマニュアルを作り入所者の尊厳が守られるような取り組みを実施したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約はなるべくわかりやすく説明をし、項目ごとに質問がないか確認しながら行なっている。また、内容の変更時は、再度説明し同意を得ている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と寄り添い会話をもち、会話のなかから不満や意見などを何気なく聞くようにしている。その中で、すぐに対応できるような不満などは改善し、内容に応じて会議や運営推進会議などで報告するようにしている。	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	おこづかい帳は毎月集計し領収書とともに、家族へ送付している。健康状態については随時報告を行なっている。	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時、家族の意見を取り入れて運営に生かしている。また、面会時等に意見があれば取り入れるようにしている。	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議にて意見や提案を求めるようにしている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の通院や外出の要望にあわせて、勤務の調整を図っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職務遂行能力の向上が見られない等以外の移動は無い。利用者より信頼されている職員については雇用条件等を整え離職しない工夫をしている。新職員については接遇・認知症研修等を施設で行いダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援			
17 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間行事計画による内部研修、外部研修へ派遣する取り組みをしている。外部研修後は、ケアカンファレンス後に勉強会を設け部所内でフィードバックしている。		
18 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟し、会合などに参加している、江陽地区にあるグループホームへ行事があるときなど招待し、交流する機会を設けている。		
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	電話や面談にて管理者や職員からの悩み、相談、ストレスについて聞き取り早い解決を試みている。基本的に管理者より相談を受けているが、直に本部へ相談できる仕組みもある。		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者からの電話報告や、ファクスでの報告を受けており、月2回の施設訪問により全体を把握している。年2回勤務評価を行い、努力しているスタッフに対しては賞与に反映させる等の工夫をしている。努力の足りない職員に対しては、面談や具体的に技術や考え方まで踏み込んで指導している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時は家族の状況や、不安や心配事、困っていることをゆっくりと時間をかけて聞き取っている。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受け、その時必要とされる支援に関しては、居宅サービスの利用、他サービスの利用を進めるなどの対応をしている。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や親戚、友人などに面会を多くしてもらったり、外出・外泊を進めるなどしながら、孤独感を持たせないようにし、少しずつ馴染めるように支援している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常的に会話を多くもつようにしている。会話の中で、不安や喜びなどの感情を引き出し共有するように務めている。また、調理や花壇作りなど、職員が教わるような機会も多い。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、利用者の思いや状況を伝え、家族にも協力してもらい協力関係を築いている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と一緒にの行事を企画したり、外出や外泊を勧め家族との関係作りに務めている。また、遠方にいる家族へは、電話や写真入の手紙などで、関係が途切れないような支援をしている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の方との関係を継続している方は少ないものの、友人の面会があれば気兼ねなく面会をしてくれるように声をかけている。また、以前利用していたデイサービスに遊びに行くなど、友人との関係が切れないように支援している。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お茶の時間はなるべく利用者同士と一緒に過ごせるよう、職員が間に入っている。食事の準備や作業などでも利用者同士で、教えあう場面もある。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院した利用者には、早期に面会に行ったり、面会が出来ない方は、家族に状況を電話で聞くようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、会話を持ちながら把握に努めている。家族に協力をしてもらったり表情などから意向の把握に努めている。	○ 意思疎通の困難な利用者に対しての本人本位とは至ってない。アセスメントなどを通して、様々な角度からの意向の把握に努めたい。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、担当のケアマネージャーから、入所前の生活状況を聴取し、生活歴や馴染みのもの頼りにしている人や友人の把握に努めている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	アセスメント表を利用し、1日の過ごし方や不穏状況を把握するように努めている。	○ 大まかな把握に留まっているため、踏み込んだ状況把握に努め、より深い利用者の現状把握に努めたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスにより話し合い計画を作成している。また、家族や関係者にも意見等を聞き計画に盛り込んでいる。	○ 長期入所者や、安定している利用者は画一的になっている。利用者主体の具体的な計画の作成に努めたい。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なカンファレンスや、状況に応じ随時カンファレンスを開く事により、計画の変更をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事の摂取量や排泄などは一覧表を作り全ての職員が確認できるようにしている。日々の様子を介護記録に残し、介護計画に反映している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の介助や要望に応じ金銭の管理などをし、臨機応変に対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	徘徊による行方不明時の対策として、近隣住民への呼びかけや警察・消防への協力を確保している。また、民生委員とも情報交換をしながら、敬老会や入所希望者の情報交換をしている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理容や、訪問歯科などのサービスを利用したり、状態が悪化した利用者には、主治医・家族と相談し医療保険による訪問看護の利用も支援している。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働は行っていない。	○	今後機会があれば検討したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療機関に職員が通院介助をしている。通院が困難な利用者に対しては、往診にて対応してもらっている。		
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	家族と相談の上、内科主治医へ相談を行い、必要に応じて専門医の受診をしている。		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護職を兼務している為、随時状況変化に応じて対応している。また、必要時はかかりつけの病院の看護師に相談をしている。		
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は病状が安定し、面会が可能な場合は見舞いをしている。病状や主治医の判断もある為、早期退院に向けては取組んでいないが、退院後の相談については家族や医療関係者と話し合いを持っている。		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した入所者は、家族の意向や事業所で取り組める支援方法を検討し、主治医と連携を図り支援している。また、終末期に近い場合は、何度も家族・医療関係者との話し合いを行ない、全スタッフが共通した方針でケアを行なっている。		
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者・家族の意向を踏まえ、主治医との連携を密にとり、安心して終末期を過ごせるように取り組んでいる。急変時に対応できるか、主治医へ確認を取っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46</p> <p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入居前にこれまでの暮らし方や、習慣などが保てるように情報収集し、家族へも協力をお願いするなどしてダメージが最小限になるように支援している。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>47</p> <p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>トイレ誘導時の声かけは、本人の近くで周りに配慮した声かけを心がけている。記録等に関しても個人情報の取り扱いに関しては同意書を作成し、細心の注意を払っている</p>		
<p>48</p> <p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>おやつ時は利用者と隣でお茶をしながら、随時会話を待つ機会をもち、思いや希望を表現できるように支援している。また、職員で決めたことを押し付けることはせず、利用者が決める場面を作っている。</p>		
<p>49</p> <p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入浴の希望があれば、入浴日以外でも対応している。また、対応可能であれば突発的な外出の援助や希望に対応するように努めている。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50</p> <p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>季節に合わせた服を買いに行ったり、パーマや染毛をするなど、好みに合わせたおしゃれができるようにしている。また、清潔な肌着や衣類を身につけてもらい身だしなみにも気をつけている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
52	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
53	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
54	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
55	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が管理している方には、買い物の際は職員が付き添いのもと財布を渡して買い物や、会計が出来るようにしている。本人がお金を管理している場合は、残金の確認をしている。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブや買い物・外食など企画したり、希望時に出かけるようにしている。散歩なども日常的に行なっている。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望に応じて外出の援助をしている。遠方の際は、職員間で計画を立てて、安全に外出できるように充分検討をし、実行している。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの要望があれば、電話や手紙のやり取りが出来るよう支援している。利用者の状態に合わせて代弁や代筆をしている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入所時家族に、面会の制限はなく友人や親戚に気兼ねなく面会が出来る旨を伝えている。また、本人から会いたいと要望があれば、家族等に連絡先を確認し面会をお願いしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	資料をもとに身体拘束に関する研修を行ない、拘束のないケアを行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず自由に外へ出れるようにしている。玄関にセンサーを設置し、外へ出た際は察知できるようにしている。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ワンフロアなので、利用者の所在や様子が把握できている。玄関にはセンサーを設置し、外に出たことを察知し、見守り出来るようにしている。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	居室の整理を利用者と一緒に行ない、薬品類を持っている場合は、保管場所を決めたり、何の薬が大きく書いている。管理の難しい方は、職員が管理している。裁縫の道具などは、使用后職員が針の本数を確認している。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	これまでの事例を基にして、事故発生時に対応できるように器具の取り扱いや対応方法を全職員で施設内研修を行なっている。また、マニュアルを作成しており、行方不明の際は早期発見できるように取り組みをしている。防災訓練も2ヶ月に1度実施している。	○	利用者参加の避難訓練も進めたい。
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員に急変時の対応方法について研修し、実際に器具等の取り扱いについても指導している。	○	定期的な訓練を行い、全職員が対応できる体制を整えたい。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、消防署の指導の元定期的に実施している。また、緊急持ち出しも玄関に用意しすぐ持ち出せるようにしている。	○	利用者の誘導に時間がかかったり、職員の動きに無駄が多いので、避難が必要になった際に動けるように誘導訓練を実施していきたい。地域の方への協力体制作りも検討したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクがあると思われる利用者に対しては、家族と話し合いをもち、利用者が安全に暮らせるような支援を検討している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝検温をしている。申し送り簿に検温の結果を記録し、変化や訴えなども記載するようにしている。また、全職員が申し送り簿を出勤時に見るようにしている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容の説明書きを全利用者分ファイルしいつでも確認できるようにしている。また、薬の変更時は申し送りに記入して全職員が周知している。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝食時、牛乳や乳製品をメニューに加えている。また、ラジオ体操を行い運動の機会を設けている。便秘傾向の利用者には、主治医と相談の上、下剤の調整を図っている。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食ごとに利用者の力量に合わせた介助で、口腔ケアを行っている。義歯使用の利用者には週1回洗浄剤にて洗浄を行っている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的な水分補給を行っている。また、水分摂取量が不足気味な利用者には、ゼリーや果物等で水分を取るよう促している。全員の残食をチェックしているので、1日の栄養バランスや摂取量を把握している。不足がちな利用者には代替や、おやつなどで補うようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	同法人内や、保健所から感染症に対してのマニュアルや資料をもらい感染予防に生かしている。また、流行している感染症に関しては、職員に研修会の機会を開き、入所者への感染を防ぐような対応をしている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	買い置きはせず週2回以上の買い物や、肉や魚は冷凍保存をし、食材が賞味期限内に使うようにしている。冷蔵庫の週2回の清掃をし、調理器具、布巾等は塩素系消毒剤や煮沸を行い衛生管理を徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	手作りの看板や花などを飾り、季節に合わせた装飾を行い、玄関周りを家庭的な雰囲気になるように配慮している。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が心地よく過ごせるように、ゆったりと座れるソファやテレビの横に魚を飼っている。壁には日めくりカレンダーを掛け、季節に合わせた装飾をしている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの随所にテーブルと椅子を置いているので気のあう利用者同士が話をしていたり、小上がりで洗濯物をたたむなどしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	家族の写真などを飾っている。また、本人の好みに合わせてのれんや時計カレンダーなどを入居後購入し飾るなど、利用者が個々に居心地のよい工夫をしている。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	随時換気を行い、新鮮な空気を取り入れている。冬季は利用者が寒くないよう、直接風が当たらない窓を開けて換気している。また、温湿度計を配置して、適度な湿度を保てるように、調整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	床はフラットのバリアフリーとなっている。また、トイレや随所に手すりを設けている。夜間はフットライトを全居室に設置し、トイレに起きた際でも安全に移動できるように配慮している。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	出来る事、出来ない事のアセスメントを行なっている。居室のわからない利用者には、名前や装飾などでわかるように配慮したり、トイレには利用者の目線に合わせて張り紙をしている。排泄の失敗時は、本人のプライドを傷つけないように、配慮しながら自ら着替えをするような声かけをするように統一している。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畳の小あがりや、各所にテーブルと椅子を配置し、外を眺めたり、面会の方と談話できるようにしている。また、玄関にも椅子を置き、日向ぼっこを楽しむ方もいる。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入所者との会話を多く持つようにしている。話すことの少ない利用者にも、担当職員が会話を多く持ち、希望の把握に努めている。外出の援助についても、即時対応は難しいことがあるが、なるべく対応できるように時間を調整している。家庭的で笑顔の絶えない雰囲気大切に、優しい介護を念頭にした介護を提供している。